

第70回日本産科婦人科学会
P2-46-3
宮城, 2018.05.11-13

卵巣癌Ⅲ-Ⅳ期症例に対するNAC 6サイクル以上施行は有用か？

徳山智和*¹*², 近藤英司*¹, 島田京子*¹, 真木晋太郎*¹, 吉田健太*¹, 平田徹*¹, 田畑務*¹, 池田智明*¹
*¹三重大学医学部産科婦人科学教室 *²IVFなんばクリニック

【目的】

観察期間の中央値は51か月（2か月～112か月）。病理組織型・無増悪生存期間（PFS）・全生存期間（OS）などを後方視的に検討した。

【対象と方法】

当院で2008年1月1日～2014年12月31日までに上皮性卵巣癌（腹膜癌を含む）stage Ⅲ-Ⅳ期と診断した79症例中、PDSを施行した19例、未治療および追跡不可能群およびBev使用8例を除外したNAC症例52例を対象とした。

【結果】

NAC症例(n=52) のPFSは17か月（95%CI 10.94～23.06か月）、OSは33か月（95%CI 25.32～40.68か月）であった。NAC症例(n=52) 中IDS-群のPFSは5か月（95%CI 3.50～6.50か月）、OSは10か月（95%CI 1.32～18.68か月）であったのに対し、IDS+群のPFSは26か月（95%CI 21.46～30.55か月）、OSは76か月（95%CI 51.91～100.09か月）であった。IDS-群/IDS+群のPFSに関して因子を検討すると、serousとそれ以外の組織型、Ⅳ期とⅢ期との比較で有意差を認め、OSに関しては、serousとそれ以外の組織型との比較で有意差を認めた。

【考察】

NAC6サイクル以上施行した漿液性癌のPFS/OSは他の報告に比べ延長しており、施行することも考慮される。化学療法のDose intensityも影響している可能性も考えられる。